

ナス台木「トルバム・ビガー」の育苗時の生育促進

県農業試験場 八代支場園芸部(現、農研センター農産園芸研究所野菜部八代研究室)

研究のねらい

「トルバム・ビガー」は、根群の発達がよく低温伸長性に優れる多収性のナス台木であり、ナス栽培上で問題となる青枯病等の主要病害虫に抵抗性を有する。

しかし、「トルバム・ビガー」は発芽勢が悪く、幼苗期の生育が緩慢で育苗期間が長くなり、苗揃いも悪い。そこで、育苗の生育促進技術を確立する。

研究の成果

1. 種子を 100ppm のジベレリン溶液に液温 25℃ で 16 時間浸し、さらに 35℃ で 8 時間浸し、水洗いをしないで風乾して、穂木より 10 ~ 14 日早く播く。さらに、種まきから 5 日目にジベレリン 200ppm 溶液を灌水し、発芽を促進させる。
2. 初期の生育が特に悪いので、本葉 2 ~ 3 葉期に移植又は鉢上げをする。
3. 移植又は鉢上げ後、3 回程度 100ppm のジベレリンを茎葉面に散布して、穂木との生育を揃える。
4. 灌水は、「アカナス」より多めにし生育を促進させる。

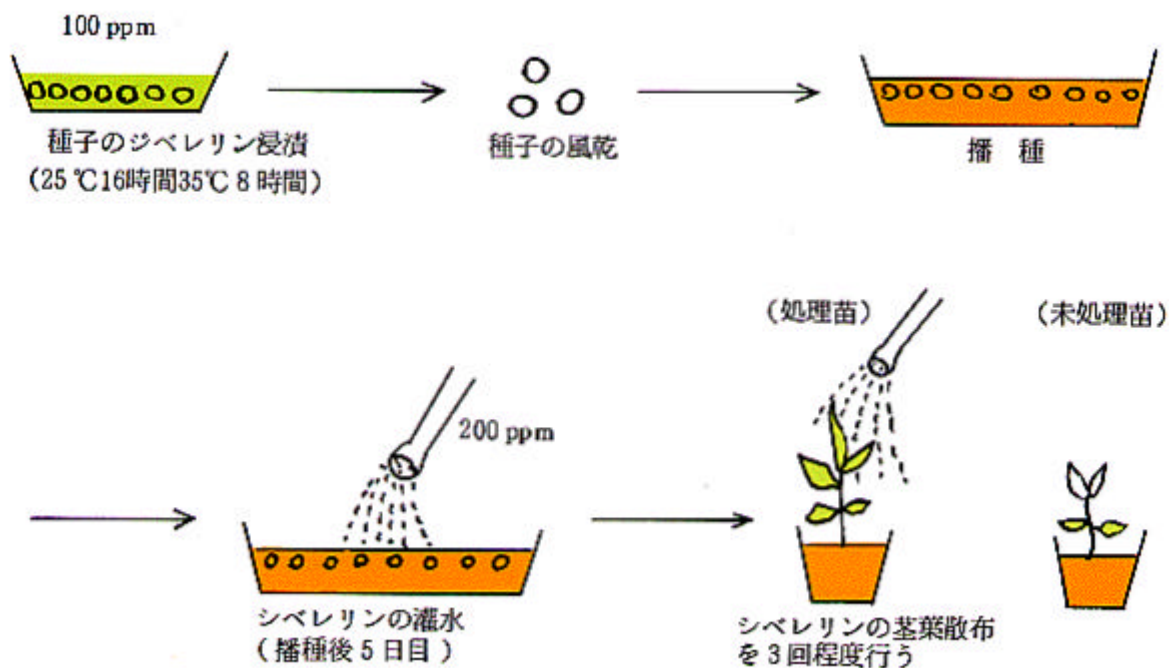


図1 ジベレリン処理の概要

表 各種ナス台木の土壌病虫害に対する抵抗性

品 種	病虫害			
	青枯病	半 身 萎 ちょう病	半枯病	ネコブ センチュウ
アカナス トルバム・ピガー	×	×		×
耐病VF アシスト	×		×	×

強度抵抗性 かなりの抵抗性 抵抗性はあるがかなり発病
 する場合がある ×り病性